

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越地域若者サポートステーション令和元年度事業報告及び令和2年度実施状況について
- (2) 上越地域若者サポートステーション令和2年度の実施計画について
- (3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について
- (4) その他

## 3 開催日時

令和2年10月13日（火）午後2時から午後3時20分まで

## 4 開催場所

上越市役所 301 会議室

## 5 出席者氏名（敬称略）

- ・会 員：田中勝、芋川岳宏、佐藤芳弘、樺澤聡子、梅谷守（藤田健男会員代理）、小林泰心、板垣朗、春日健一、吉川保、山崎幸恵（高橋香苗会員代理）、樋口芳子、久保田直子、長谷川大（渡辺晶恵会員代理）、波多野さと子、五十嵐裕
- ・事務局：上越市産業政策課 米山参事、労働係 大島係長、長谷川主任  
上越地域若者サポートステーション 浅野総括コーディネーター

## 6 発言の内容

議題(1) 上越地域若者サポートステーション令和元年度事業報告及び令和2年度実施状況について

議題(2) 上越地域若者サポートステーション令和2年度実施計画について

※議題(1)と(2)は関係するので、資料1～7に基づき事務局より一括説明

○質疑・意見等

質問・意見なし

議題(3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について

○質疑・意見等

(質問者 NPO 法人えちご若者元気塾：梅谷会員)

- ・このコロナ禍における冷え込み具合についてどう受け止めているのか、そしてまた、そこにおける課題の解消に向けて、本日の資料中に、どういうことが盛り込まれているのか。
- ・6ヵ月以上就職し続けていれば定着していることになっている。一般的には就職してから3年で定着というイメージがあるが、6ヵ月としている理由と、実態としての定着率をどう受け止めているのか。

(回答者 上越市産業政策課：五十嵐会員)

- ・新型コロナウイルスの関係ということだが、前年同月比で比較すると利用は増加している。例えば新規登録者数は9月末時点で52人となっているが、前年同月は45名である。新規登録相談者数は9月末時点で17名だが、前年同月比で15名である。利用状況が多いのは、新型コロナウイルスの影響もあると見ている。利用状況の多い少ないよりも、就職者数に繋がっていくことが重要と考えている。
- ・高校生の35%が3年以内で離職してしまうという統計もある。最初に勤めたところから転職するというのはコロナ禍に限らず、今の社会情勢であるとしている。スキルアップしての転職ならよいが、それはなかなか難しいところがある。定着率については課題として認識しており、大企業に勤めればよいとか、就職するときの前情報が少ないなどの改善策として、キャリア教育や事前にインターンシップで企業を知ることでもできる。転職がすべて悪いというわけではないが、離職については、職に就かない期間が長いほどよくないというのは共通だと考えられるので、再就職に向けての期間の短縮や、職に就くときの知識的部分も含めて検討していく必要がある。

(回答者 浅野総括支援コーディネーター)

- ・実際に就職が決まった後、皆さんにステップアップを希望するかどうか、アンケート調査をしている。アンケートとともに、最終面談をしたときにどうするか伺っている。希望する場合は、就職後のフォローもさせていただく。希望しない場合は、その後の行方はなかなかつかめない。実際に登録をした人を見ると、半分にも満たない人がステップアップの希望者になっている。ステップアップ就職を希望した中では、実際、退職する人もいるがそれほど多くはない。どこまでステップアップするかについては、ご本人が納得されるまでは続くというイメージで、都度、話をしていく中でステップ

アップしていく状況である。

- ・春にコロナの関係でなかなか動くことができなかつた分、数字にも表れているが、新規登録者は、特に4月が非常に少なく3名。7月、8月、9月は14名、13名、9名となっている。実際の支援の具体的な部分は電話も少なく、相談に来られる人が本当にいなかった。対策としては、今後の取組にもつながるが、関係機関に協力をして頂きたいというところで2か月に1回くらいの訪問を継続し、まず我々が具体的に現場を動かしていく中で、1番に新規の相談者を増やすことに力を入れている。

#### 議題(4) その他

(事務局：大島係長)

- ・皆様に取組の状況をお聞きしたい。加えて、これまで説明のあった内容に対して、ご意見があればお願いしたい。

(上越保健所：波多野会員)

- ・保健所の相談員は、電話又は来所での相談対応をしている。匿名又は名乗ってくださった人には、個人情報を守るという前提で対応している。年齢を区切らない対応をしている。相談件数が去年の時点と比べると増えている。9月は自殺対策月間ということで啓発した効果もあるが、電話相談は匿名を含めると213件あった。最近気になっているのは、職場での人間関係の相談と若い人の相談が増えてきていることである。その点で、上越地域若者サポートステーション（以下「サポステ」）と連携させていただきたい。

(上越市すこやかなくらし包括支援センター：長谷川会員)

- ・相談の業務をさせてもらっている。特にコロナの影響での相談数の増減は、数字としては見えていない。日ごろから若者の相談でサポステともやり取りさせてもらっている。関わっている相談の人で就職したいという気持ちがあれば、サポステにつないでいる。その前の段階の人で、就職までの気持ちはないという引きこもりの人は、サポステにつなぐのは早いかなと、どう処遇したらよいか悩むところはある。また今後もサポステと連携を取っていきたい。

(糸魚川市商工観光課：久保田会員)

- ・企業支援という立場で、雇用・行政に関わっている。サポステで相談に乗って頂くような人の顔は見えにくく、ほとんど接点はない。庁内で引きこもり等を担当している、

健康増進課や福祉事務所と連携を取りながらやっているという状況である。情報交換ということなので、企業支援で先々こういう人たちに何かご支援できるかなということで取り組んでいることを1つご紹介したい。テレワークオフィスというものを市で設置している。働きたくても働けない人が自由な時間に出勤して、こちらが設置したOA機器と業務に取り組んでいただく施設を作っている。今は、障害を持っている人が数名おり、あとは子育て中や介護の関係で、わずかな時間しか働けない人が、このような環境がありがたいと言っている。将来的には、福祉関係の人に多くお勤めいただけるような状況にしていきたいと思っているが、施設整備の面で問題もたくさんある。徐々に整えながらそのような方向に進めていければよいと考えている。

(質問者 上越市産業政策課：五十嵐会員)

- ・上越市もテレワークに注目している。公共施設などに整備しているということか。

(回答者 糸魚川市商工観光課：久保田会員)

- ・今、コロナ禍において話題になっている、在宅で行うテレワークとは違って、サテライト型テレワークオフィスという形である。遠隔で仕事を頂くが、基本的には働く場所とOA機器を市が整備している。働く環境と仕事を準備してあるので、そこに来ることが可能な時間に働けるだけお越しく下さいというような状況で行っている。

(上越市産業政策課：五十嵐会員)

- ・今、働き方改革といって色々な働き方がある中で、なかなか家では出来なかったり、会社までは勤められなかったりで、空き時間を使ってというのはある。

(糸魚川市商工観光課：久保田会員)

- ・例えば、農業を主にされている人が、午後の時間が空いているからという感じで、ダブルワークとしてお勤めいただいている人もいる。子育てをメインにしたいという強い意志をお持ちの人であれば、子どもが保育園や学校に行っている間を使ってという感じである。将来的には在宅ワークを考えている人が、コロナが発生してから考え始めている。

(質問者 新潟県しごと定住促進課：山崎会員)

- ・環境と仕事を提供している場所ということで、環境を提供しているというのはよくあると思うが、仕事を提供するというのはどういった仕事を用意しているのか。

(回答者 糸魚川市商工観光課：久保田会員)

- ・他市と連携している。詳しい内容はお伝えできないが、年間を通じて安定した仕事が今のところあるので、お越しいただくワーカーさんには、個人事業主として勤めてもらっている。

(上越市産業政策課：五十嵐会員)

- ・場所は今、全国的にも駅前のビジネスホテルにテレワークのできる環境がある。上越妙高駅でIT関係の人が仕事をされていたり、街中でもIT関係の人がまさにテレワークをコワーキングスペースでやっている。

(上越地域振興局：樋口会員)

- ・地域振興局では私以外に担当が2名いて、労働相談の対応をしている。労働基準監督署と同じ対応はできないため、相談を受けて様々な機関を紹介しており、内容によってはサポステも紹介している。件数としてはほしい30件前後くらいで毎月推移しているが、春先はコロナの関係で相談が多かった。

(新潟県しごと定住促進課：山崎会員)

- ・今回、新潟県と新潟労働局は、就職氷河期世代の就職・正社員化の実現等に向けた取組を官民一体となって実施するため、経済団体・労働団体などで構成する「にいがた氷河期世代活躍支援プラットフォーム」を令和2年4月に設置した。このプラットフォームは3年間の計画になっており、本年度は支援対象者の掘り起こしをテーマにセミナー等を実施していく予定である。今回の実施計画では、「①不安定な就労状態にある人」については非正規で働いている人を想定していて、ハローワークを中心として、非正規雇用者数5,550人を目標として支援していく予定であり、「②就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある人」については、ニートと呼ばれる人を想定している。こちらはサポステを中心として就労その他の就労的自立に繋げることを目標とする。「③社会参加に向けた支援を必要とする人」については、引きこもりと呼ばれる人を想定していて、福祉の色が強くなっていくと思う。目標として支援対象者やそのご家族のニーズや状態に応じ、支援が必要な人には確実に支援が届くよう身近な市町村に相談して支援を受けられる体制を整備する。主な取組として、市町村単位でのネットワークの構築に務め、新潟プラットフォームとの連携を図るとしている。今回のネットワーク会議もネットワークの構築に務めている会議だが、厚生労働省から話がある中では市町村レベルのプラットフォーム

が求められている。この会議を生かしてもよいし、別に設ける形でもよいので、引きこもりを実際支援している福祉部局を充実させた形でプラットフォームの設置を検討いただければと思っている。

(新潟県高等学校長協会：吉川会員)

- ・本校（高田南城高等学校）は、定時制・通信制高校であり、サポステ事業も対象になる。本年度卒業する生徒が38名ほどおり、ハローワーク斡旋の就職を希望する生徒が18名、進学を希望する生徒は4名いる。だいたい6割程度が進路決意に向けて努力している。ここに焦点を当てて指導しているところである。16名ほどまだ決めかねているが、1つはそもそも学校生活に向けたサポートが必要な生徒もあり、様々な課題があるので、すこやかにくらし包括支援センターからも情報共有しながら意見をいただければと思っている。こんな状況ではあるが、学校生活に向けて支援が行き届き、そして就職したいという希望が出てくる段階でハローワークにつなげるかというところである。

(上越商工会連絡協議会：春日会員)

- ・商工会では直接、商工会の窓口等へ若年者の皆さんあるいはご家族の皆さんが相談に来るといったケースはほとんど無い。この会議のメンバーとして、主にサポステの相談会や職場体験の周知ということで、会員事業所へ情報提供をしているのが主な内容である。

(上越商工会議所：板垣会員)

- ・商工会議所の会員は一部大手企業の営業所もあるが、9割以上は地元の中小規模事業者である。コロナの影響で有効求人倍率が落ちていて数字は1倍以上あるが、やっぱりまだ人手不足が顕著である。そういう相談は日々受けている。先ほどの職場体験への繋ぎを会議所としてはできると思っていて、情報発信をしていきたい。

(上越市産業政策課：五十嵐会員)

- ・ポスターやチラシを活用してPRしていただければと思う。
- ・市では経済状況の情報共有会議をしている。コロナ禍の中でも有効求人倍率1倍は保っているということであるが、働きたくても希望している所になかなか勤められない、離職へつながってしまうというのがある。商工会議所や商工会は、インターンシップや企業の情報を発信していく大事な部分だと思う。連携してできるところ

があれば引き続き連携していただきたい。

(NPO 法人えちご若者元気塾：梅谷会員)

- ・えちご若者元気塾では、ニート、引きこもり、フリーターの人々を対象としているが、特に引きこもりの方がメインである。今まで話があるように1年引きこもっていたら、支援開始して家から出るまでに1年かかり、5年引きこもっていたら、また5年かかるという世界で、年度ごとの目標に馴染みづらいので、福祉的な内容は必要なのかなと思う。体制は、産業カウンセラー、社会福祉士など有資格者の人々が、ボランティアで、借家において事業を実施している。当事者となる引きこもりの人が約30名で、毎週木曜日に行っている。17時までの間は6、7人、17時を過ぎるとOBが7、8人、居場所として、来ていただいているというのが実態で、コロナ禍においても変化はない。
- ・様々な相談があり、上越地域で事業を実施しているが、糸魚川で引きこもりの子たちに対して、受け皿となる支援体制が当事者にとっては見えづらい。何かサテライト的なものをしていただけないかという話があった。福祉的な観点があるので、ぜひご検討いただきたい。妙高市でも同じことが言えるのかもしれない。そういう声がないのは、しっかり取組をされている成果だと思うが、ぜひ周知に力を入れていただきたい。

(障害者就業・生活支援センターさくら：樺澤会員)

- ・障害者就業・生活支援センターさくらでは、社会福祉制度というものがあり、そちらを通じてハローワークと連携していて、すぐに就職するのではなく、その前段階で少し職場に馴染むため、就職ミスマッチがないようにというところで支援している。

(糸魚川公共職業安定所：佐藤会員)

- ・ハローワーク糸魚川では、令和2年4月～8月末現在、新規求人が33%、新規求職13.5%の減少。サポステの数字を見させてもらったが、サポステの利用者数について見ると9月末で倍増している。窓口対応をされていて感じることだが、新規求職は減っているのだけど、サポステにつなげる必要のある人は増えているという実感がある。

(上越公共職業安定所 妙高出張所：芋川会員)

・妙高の公共職業安定所は管轄が妙高市、上越市の板倉区・中郷区ということになる。  
求人と求職者の状況で、今年度の求人は8月末までで、昨年同計18.9%減っているということになる。求職者は9.4%増えている。求人倍率は下がっているという状況である。窓口での感覚は、退職されている人は少し増えているが、爆発的に増えているわけではない。ただ、在職中でも今後、退職や会社が解雇するのではないかと不安を持っている人が結構増えているという感覚がある。国の雇用調整助成金を活用して、事業を維持している事業所もあるかもしれないので、今後求職者が増える可能性があるという感覚である。

(上越公共職業安定所：田中会員)

・妙高出張所を含めた状況になるが、8月の新規求人で、前年度受付比28.6%減少している。新規求職者は、大きな差はないが2.6%若干の減少になっている。求人は、飲食関連、宿泊関連、小売り関係、製造業で非常に減少が大きくなっている。感じたところは、在職中の人についてはそれほど多くはない。コロナ禍の状況もあるので、就職活動を控えているのかなという印象がある。若年者の人についてはハローワークの中に若者支援コーナーを設置していて、予約相談で対応している。そこで聞き取った課題を必要に応じてサポステに案内したりしている。引き続き連携させてもらえればと思っている。

(事務局：大島係長)

・その他、追加でお聞きしたいということがあれば、発言をお願いしたい。

(質問者 障害者就業・生活支援センターさくら：樺澤会員)

・職場体験はどういった経緯で行ったのか。

(回答者 浅野総括支援コーディネーター)

・需要もあるという話があり、グループホームに職場体験に行った。介護の職というところに関しても職場体験させてもらって、グループホームを受けた人が実際ハローワークをとおして職場体験先へ求職をして、今、書類審査をしてもらってから面接の日を決めており、見本のような流れになっている。

(質問者 障害者就業・生活支援センターさくら：樺澤会員)

・パンフレットを作られてという感じか。職場体験の募集に関するパンフレットということか。



(回答者 浅野総括支援コーディネーター)

- ・パンフレットを作り、印刷して、商工会議所にもご案内させてもらおうと思っている。こちらの方で色々と案を練りながら協力している。

(上越市産業政策課：五十嵐会員)

- ・午前中の経済状況情報共有会議の話をしたが、コロナの関係で飲食業、宿泊業がかなり打撃を受けていた。今のGo To キャンペーン等で少し回復傾向にあるという話があった。宿泊、飲食業は悪いが、少し横ばいか、少しずつ上がってきている感覚があるという話であった。製造業や建設業は先行きが不安だという声があった。金融関係の人たちも融資は一通り実行できたということであった。第二波がくれば別だが、最初に借り入れしたものは、3、4年間は無利子無担保の中でやっているが、その後のことは、フォローとしては来年に出てくるのかなどのことであった。コロナの関係でいろいろ就職状況も悪いが、皆さんも課題を持っていると思う。先ほどの引きこもりの話だと、5年引きこもれば、5年かかるという状況であり、非常に難しいというのは実感した。今後、個々に連携も取っていただければと思っている。必要に応じてまたこの会議を設けたいと思っている。サポステの状況は横の連携ということで図っていきたいと考えている。

## 7 問合せ先

上越市産業観光交流部産業政策課 TEL：025-526-5111

E-mail：[sangyou@city.joetsu.lg.jp](mailto:sangyou@city.joetsu.lg.jp)

## 8 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。